

平成23年12月22日

## 参考資料…Clarity版ISA、報告書、及び主な現行の監査実務指針の比較表

注1：本表は、監査基準委員会の新起草方針に基づく改訂版をご理解頂く際に参考に資するために、便宜的に作成した参考資料であって、報告書の一部を構成するものではなく、また、正式な手続を経て取りまとめたものでもない旨ご留意ください。

注2：主な現行の監査実務指針については、Clarity版ISAに概ね相当するテーマを扱う監査実務指針を選定し、さらに概ね対応する項目のみを抽出しております。したがって、欄が空白であることをもって、ただちに我が国の現行の監査実務指針に規定が存在しないことを意味する訳ではなく、他の監査実務指針に記載がある場合もある旨ご留意ください。

注3：Clarity版ISAに付されている脚注や他の基準への参照は基本的に報告書では含めていない点にご留意ください。

注4：「主な現行の監査実務指針」の列で現行の監査実務指針の項が重複する場合には、最初に登場する項目又は主たる項目のみに当該項の文書を記載し、2回目以降に登場するときにはカッコを付して「（現行〇項。なお、該当文章は報告書の〇項の右列）」と記載するとともに記載するにまとめております。

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
<b>ISA 720 The Auditor's Responsibilities Relating to Other Information in Documents Containing Audited Financial Statements</b>		<b>監査基準委員会報告書 720</b> <b>監査した財務諸表が含まれる開示書類におけるその他の記載内容に関連する監査人の責任</b>		監査・保証実務委員会報告第75号 <b>監査報告書作成に関する実務指針</b> 最終改正 平成21年7月8日  (また、一部に、上記以外の監査基準委員会報告書等を参考情報として記載した箇所があり、当該箇所には冒頭に公表物の名称を表示している。)
<b>Introduction</b>	<b>Application and Other Explanatory Material</b>	《Ⅰ 本報告書の範囲及び目的》	《Ⅲ 適用指針》	
<b>Scope of this ISA</b>	<b>Scope of this ISA</b>	《1. 本報告書の範囲》	《1. 本報告書の範囲》	
	<i>Additional Responsibilities, through Statutory or Other Regulatory Requirements, in Relation to Other Information (Ref: Para. 1)</i>		《(1) 法令等によるその他の記載内容に関する追加の責任》（第1項参照）	
1. This International Standard on Auditing (ISA) deals with the auditor's responsibilities relating to other information in documents containing audited financial statements and the auditor's report thereon. In the absence of any separate requirement in the particular circumstances of the engagement, the auditor's opinion does not cover other information and the auditor has no specific responsibility for determining whether or not other information is properly stated. However, the auditor reads the other information because the credibility of the audited financial statements may be undermined by material inconsistencies between the audited financial statements and other information. (Ref: Para. A1)	A1. The auditor may have additional responsibilities, through statutory or other regulatory requirements, in relation to other information that are beyond the scope of this ISA. For example, some jurisdictions may require the auditor to apply specific procedures to certain of the other information such as required supplementary data or to express an opinion on the reliability of performance indicators described in the other information. Where there are such obligations, the auditor's additional responsibilities are determined by the nature of the engagement and by law, regulation and professional standards. If such other information is omitted or contains deficiencies, the auditor may be required by law or regulation to refer to the matter in the auditor's report.	1. 本報告書は、監査した財務諸表及び監査報告書が含まれる開示書類におけるその他の記載内容に関連する監査人の責任についての実務上の指針を提供するものである。 個々の業務の状況において別に要求される事項がない限り、その他の記載内容は監査意見の対象ではなく、監査人は、その他の記載内容が適切に記載されているかどうかを判断する特定の責任を有していない。 しかしながら、監査した財務諸表とその他の記載内容との重要な相違によって、監査した財務諸表の信頼性が損なわれることがあるため、監査人は、その他の記載内容を通読する。(A1項参照)	A1. 監査人は、法令等により、その他の記載内容について本報告書に記載された以外に追加の責任を有することがある。 例えば、監査人は、要求される補足的情報等その他の記載内容の一部に対して特定の手続を実施する、又はその他の記載内容に記載された業績指標の信頼性に関して意見を表明することが要求されることがある。そのような義務が存在する場合の監査人の追加の責任は、業務の内容と、法令等及び職業的専門家としての基準によって決められる。その他の記載内容が省略されている、又はその他の記載内容に不備がある場合、監査人は、法令等により、監査報告書において当該事項に関して記載することが要求されている場合がある。	(参考：平成22年改訂監査基準第四 二 監査報告書の記載区分 2 監査人は、財務諸表の記載について強調する必要がある事項及び説明を付す必要がある事項を監査報告書において情報として追記する場合には、意見の表明とは明確に区別しなければならない。)  (参考：平成22年改訂監査基準第四 七 追記情報 監査人は、次に掲げる強調すること又はその他説明することが適当と判断した事項は、監査報告書にそれらを区分した上で、情報として追記するものとする。 ～ (4) 監査した財務諸表を含む開示書類における当該財務諸表の表示とその他の記載内容との重要な相違)
	<i>Documents Containing Audited Financial Statements (Ref: Para. 2)</i>		《(2) 監査した財務諸表が含まれる開示書類》（第2項参照）	
	<b>Considerations Specific to Smaller Entities</b>		《小規模企業に特有の考慮事項》	
2. In this ISA "documents containing audited financial statements" refers to annual reports (or similar documents), that are issued to owners (or similar stakeholders), containing audited financial statements and the auditor's report thereon. This ISA may also be applied, adapted as necessary in the circumstances, to other documents containing audited financial statements, such as those used in securities offerings. <sup>1</sup> (Ref: Para. A2)  1 ISA 200, "Overall Objectives of the Independent Auditor and the Conduct of an Audit in Accordance with International Standards on Auditing,"	A2. Unless required by law or regulation, smaller entities are less likely to issue documents containing audited financial statements. However, an example of such a document would be where a legal requirement exists for an accompanying report by those charged with governance. Examples of other information that may be included in a document containing the audited financial statements of a smaller entity are a detailed income statement and a management report.	2. 本報告書において、「監査した財務諸表が含まれる開示書類」は、株主（又は同様の利害関係者）に発行又は開示される、監査した財務諸表及び監査報告書が含まれる年次報告書（又は同様の書類）を表す。 さらに、本報告書は、有価証券届出書等、監査した財務諸表が含まれるその他の開示書類にも状況に応じて適用されることがある。 (監査基準委員会報告書200「財務諸表監査における総括的な目的」第2項参照) (A2項参照)	A2. 小規模企業は、監査した財務諸表が含まれる書類を外部に公表することは少ないが、例えば、経営者の事業報告がその他の記載内容に該当する場合がある。	

Clarity 版 ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
paragraph 2.				
<b>Objective</b>		《2. 本報告書の目的》		
4. The objective of the auditor is to respond appropriately when documents containing audited financial statements and the auditor's report thereon include other information that could undermine the credibility of those financial statements and the auditor's report.		3. 本報告書における監査人の目的は、監査した財務諸表及び監査報告書が含まれる開示書類におけるその他の記載内容に、財務諸表と監査報告書の信頼性を損なう可能性のある情報が含まれる場合、適切に対応することである。		
<b>Definitions</b>	<b>Definition of Other Information</b> (Ref: Para. 5(a))	《3. 定義》	《2. その他の記載内容の定義》(第4項(1)参照)	
5. For purposes of the ISAs the following terms have the meanings attributed below: (a) Other information – Financial and non-financial information (other than the financial statements and the auditor's report thereon) which is included, either by law, regulation or custom, in a document containing audited financial statements and the auditor's report thereon. (Ref: Para. A3-A4) (b) Inconsistency – Other information that contradicts information contained in the audited financial statements. A material inconsistency may raise doubt about the audit conclusions drawn from audit evidence previously obtained and, possibly, about the basis for the auditor's opinion on the financial statements. (c) Misstatement of fact – Other information that is unrelated to matters appearing in the audited financial statements that is incorrectly stated or presented. A material misstatement of fact may undermine the credibility of the document containing audited financial statements.	A3. Other information may comprise, for example: ・ A report by management or those charged with governance on operations. ・ Financial summaries or highlights. ・ Employment data. ・ Planned capital expenditures. ・ Financial ratios. ・ Names of officers and directors. ・ Selected quarterly data.  A4. For purposes of the ISAs, other information does not encompass, for example: ・ A press release or a transmittal memorandum, such as a covering letter, accompanying the document containing audited financial statements and the auditor's report thereon. ・ Information contained in analyst briefings. ・ Information contained on the entity's website.	4. 本報告書における用語の定義は、以下のとおりとする。 (1) 「その他の記載内容」 – 監査した財務諸表及び監査報告書が含まれる開示書類のうち、財務諸表及び監査報告書以外の法令等又は慣行に基づき作成された情報をいう。なお、その他の記載内容には財務情報及び非財務情報が含まれる。(A3 項から A4 項参照) (2) 「相違」 – その他の記載内容が、監査した財務諸表に含まれる情報と矛盾していることをいう。重要な相違は、それまでに入手した監査証拠から導き出した監査の結論や、場合によっては、財務諸表に対する意見表明の基礎に疑問を抱かせる場合がある。 (3) 「事実の虚偽記載」 – その他の記載内容のうち、監査した財務諸表に記載された事項と関連しない情報が、不正確に記載又は表示されていることをいう。事実の重要な虚偽記載によって、監査した財務諸表が含まれる開示書類の信頼性が損なわれることがある。	A3. その他の記載内容は、例えば、以下が含まれる。 ・ 経営者による事業報告 ・ 財務概要又は財務ハイライト ・ 従業員の状況 ・ 設備投資計画 ・ 財務比率 ・ 取締役の氏名 ・ 四半期財務情報  A4. 本報告書におけるその他の記載内容には、例えば、以下のものは含まれない。 ・ 監査した財務諸表及び監査報告書が含まれる開示書類を公表又は送付する際に添付されるプレスリリース、又は送り状 ・ アナリスト向け資料に含まれる情報 ・ 企業のウェブサイトに掲載される情報	
<b>Requirements</b>		《II 要求事項》		
<b>Reading Other Information</b>		《1. その他の記載内容の通読》		
6. The auditor shall read the other information to identify material inconsistencies, if any, with the audited financial statements.		5. 監査人は、監査した財務諸表との重要な相違を識別するため、その他の記載内容を通読しなければならない。		75-III 金融商品取引法監査における監査報告書 1 (1)⑤ 追記情報 (ケ) 監査した連結財務諸表を含む開示書類における当該連結財務諸表の表示とその他の記載内容との重要な相違 監査基準の改訂について(平成14年1月25日)「三 主な改訂点とその考え方 9 監査意見及び監査報告書 (3) 追記情報」の中で、「財務諸表と共に開示される情報において、財務諸表の表示やその根拠となっている数値等と重要な相違があるときには、監査人が適正と判断した財務諸表に誤りがあるのではないかとの誤解を招く虞があるため、追記する情報として例示した」と述べられている。これは、本来、連結財務諸表と共に開示される情報に対する監査上の責任はないが、当該情報と連結財務諸表との間に重要な相違
7. The auditor shall make appropriate arrangements with management or those charged with governance to obtain the other information prior to the date of the auditor's report. If it is not possible to obtain all the other information prior to the date of the auditor's report, the auditor shall read such other information as soon as practicable. (Ref: Para. A5)	<b>Reading Other Information</b> (Ref: Para. 7)  A5. Obtaining the other information prior to the date of the auditor's report enables the auditor to resolve possible material inconsistencies and apparent material misstatements of fact with management on a timely basis. An agreement with management as to when the other information will be available may be helpful.	6. 監査人は、監査報告書日の前にその他の記載内容を入手できるように、その他の記載内容を入手する時期について経営者と適切に調整しなければならない。 監査人は、その他の記載内容の一部を監査報告書日の前に入手できない場合には、入手できなかったその他の記載内容を入手後速やかに通読しなければならない。(A5 項参照)	《3. その他の記載内容の通読》(第6項参照)  A5. 監査人は、その他の記載内容を監査報告書日の前に入手することにより、重要な相違となる可能性のある事項や明らかな事実の重要な虚偽記載を、経営者と適時に協議し、解消することができる。 その他の記載内容をいつ入手できるかについて、経営者と合意することが有益である。	
<b>Material Inconsistencies</b>		《2. 重要な相違》		
8. If, on reading the other information, the auditor identifies a material inconsistency, the auditor shall determine whether the audited financial		7. 監査人は、その他の記載内容を通読することにより重要な相違を識別した場合、監査した財務諸表又はその他の記載内容を修正する		

Clarity 版 ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
statements or the other information needs to be revised.		必要があるかどうかを判断しなければならない。		があるときには、監査人が適正と判断した連結財務諸表に誤りがあるのではないかと誤解を招く虞があるため、諸外国の監査基準との整合性も考慮して追記情報に記載することとされたものである。
<i>Material Inconsistencies Identified in Other Information Obtained Prior to the Date of the Auditor's Report</i>		《(1) 監査報告書日の前に入手したその他の記載内容について識別した重要な相違》		連結財務諸表と共に開示される情報には様々な種類のもが想定されるが、追記情報の記載対象となる“重要な相違”の範囲に経営者の記述情報を含むことは、いたずらに監査人の責任を広げることになる。したがって、客観的に“重要な相違”の有無が確認できる数値情報（金額、数値、割合等）のみを記載の対象とする。 なお、“重要な相違”の有無は監査人の注意義務として開示書類の全体を読む中で確認されるものであり、特段の監査手続が要請されるものではない。
9. If revision of the audited financial statements is necessary and management refuses to make the revision, the auditor shall modify the opinion in the auditor's report in accordance with ISA 705. <sup>2</sup>		8. 監査した財務諸表に修正が必要であるが、経営者が修正することに同意しない場合、監査人は、監査基準委員会報告書 705「独立監査人の監査報告書における除外事項付意見」に従って監査報告書において除外事項付意見を表明しなければならない。		
<sup>2</sup> ISA 705, “Modifications to the Opinion in the Independent Auditor's Report.”				
10. If revision of the other information is necessary and management refuses to make the revision, the auditor shall communicate this matter to those charged with governance, unless all of those charged with governance are involved in managing the entity <sup>3</sup> ; and (a) Include in the auditor's report an Other Matter(s) paragraph describing the material inconsistency in accordance with ISA 706; <sup>4</sup> or (b) Withhold the auditor's report; or (c) Withdraw from the engagements, where withdrawal is possible under applicable law or regulation. (Ref: Para. A6-A7)	<b>Material Inconsistencies</b>	9. その他の記載内容に修正が必要であるが、経営者が修正することに同意しない場合、監査人は、監査役等に当該事項を報告するとともに、以下のいずれかを行わなければならない。（監査基準委員会報告書 260「監査役等とのコミュニケーション」第 14 項参照） (1) 監査基準委員会報告書 706「独立監査人の監査報告書における強調事項区分とその他の事項区分」第 7 項に従って監査報告書にその他の事項区分を設け、重要な相違について記載する。 (2) 監査報告書を発行しない。 (3) 可能な場合、監査契約を解除する。（A6 項参照）	《4. 重要な相違》	75-IV 会社法監査における監査報告書 1. (6) 追記情報 ① 追記情報の記載対象 ～ なお、監査基準で追記情報とされている「監査した財務諸表を含む開示書類における当該財務諸表の表示とその他の記載内容との重要な相違」については、会社法では特段の要請が行われていないが、金融商品取引法監査との関係から、会社法監査における監査報告書においても追記情報として記載を行うものとする。
	<i>Material Inconsistencies Identified in Other Information Obtained Prior to the Date of the Auditor's Report</i> (Ref: Para. 10)		《(1) 監査報告書日の前に入手したその他の記載内容について識別した重要な相違》（第 9 項参照）	
	A6. When management refuses to revise the other information, the auditor may base any decision on what further action to take on advice from the auditor's legal counsel.		A6. 経営者がその他の記載内容を修正することに同意しない場合、監査人は、監査人の顧問弁護士の助言に基づき、どのような措置を講じるか判断することがある。	
	<b>Considerations Specific to Public Sector Entities</b>			
<sup>3</sup> ISA 260, “Communication with Those Charged with Governance,” paragraph 13.	A7. In the public sector, withdrawal from the engagement or withholding the auditor's report may not be options. In such cases the auditor may issue a report to the appropriate statutory body giving details of the inconsistency.			
<sup>4</sup> ISA 706, “Emphasis of Matter Paragraphs and Other Matter Paragraphs in the Independent Auditor's Report,” paragraph 8.				
<i>Material Inconsistencies Identified in Other Information Obtained Subsequent to the Date of the Auditor's Report</i>		《(2) 監査報告書日の後に入手したその他の記載内容について識別した重要な相違》		
11. If revision of the audited financial statements is necessary, the auditor shall follow the relevant requirements in ISA 560. <sup>5</sup>		10. 監査した財務諸表の修正又は訂正が必要な場合、監査人は、監査基準委員会報告書 560「後発事象」第 9 項から第 16 項の関連する要求事項に従わなければならない。		
<sup>5</sup> ISA 560, “Subsequent Events,” paragraphs 10-17.				
12. If revision of the other information is necessary and management agrees to make the revision, the auditor shall carry out the procedures necessary under the circumstances. (Ref: Para. A8)	<i>Material Inconsistencies Identified in Other Information Obtained Subsequent to the Date of the Auditor's Report</i> (Ref: Para. 12-13)	11. その他の記載内容に修正又は訂正が必要であり、経営者が修正又は訂正することに同意した場合、監査人は、その状況において必要な手続を実施しなければならない。（A7 項参照）	《(2) 監査報告書日の後に入手したその他の記載内容について識別した重要な相違》（第 11 項から第 12 項参照）	A7. 経営者がその他の記載内容を訂正することに同意した場合の監査人の手続には、以前に発行した財務諸表、監査報告書及びその他の記載内容を受領した者に対して訂正内容を伝達するために経営者が行う対応を検討することが含まれることがある。
	A8. When management agrees to revise the other information, the auditor's procedures may include reviewing the steps taken by management to ensure that individuals in receipt of the previously issued financial statements, the auditor's report thereon, and the other information are informed of the revision.		A8. 経営者が、監査人が必要と判断したその他の記載内容の修正又は訂正を行うことに同意しない場合に監査人が講じる適切な措置には、監査人の顧問弁護士に助言を求めることが含まれる。	
13. If revision of the other information is necessary, but management refuses to make the revision, the auditor shall notify those charged with governance, unless all of those charged with governance are involved in managing the entity, of the auditor's concern regarding the other	A9. When management refuses to make the revision of such other information that the auditor concludes is necessary, appropriate further actions by the auditor may include obtaining advice from the auditor's legal counsel.	12. その他の記載内容に修正又は訂正が必要であるが、経営者が修正又は訂正することに同意しない場合、監査人は、監査役等にその他の記載内容に関する監査人の懸念を知らせるとともに、適切な措置を講じなければならない		

Clarity 版 ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
information and take any further appropriate action. (Ref: Para. A9)		い。(A8 項参照)		
<b>Material Misstatements of Fact</b>	<b>Material Misstatements of Fact</b> (Ref: Para. 14-16)	<b>《3. 事実の重要な虚偽記載》</b>	<b>《5. 事実の重要な虚偽記載》</b> (第 13 項から第 15 項参照)	
14. If, on reading the other information for the purpose of identifying material inconsistencies, the auditor becomes aware of an apparent material misstatement of fact, the auditor shall discuss the matter with management. (Ref: Para. A10)	A10. When discussing an apparent material misstatement of fact with management, the auditor may not be able to evaluate the validity of some disclosures included within the other information and management's responses to the auditor's inquiries, and may conclude that valid differences of judgment or opinion exist.	13. 監査人は、重要な相違を識別するためにその他の記載内容を通読する際に、明らかな事実の重要な虚偽記載に気付いた場合、経営者と当該事項について協議しなければならない。(A9 項参照)	A9. 明らかな事実の重要な虚偽記載について経営者と協議する場合に、監査人は、その他の記載内容に含まれる開示及び監査人の質問に対する経営者の回答の妥当性を評価することができず、判断又は見解の相違が存在すると結論付けることがある。	
15. If, following such discussions, the auditor still considers that there is an apparent material misstatement of fact, the auditor shall request management to consult with a qualified third party, such as the entity's legal counsel, and the auditor shall consider the advice received.		14. 監査人は、そのような協議を行った結果、明らかな事実の重要な虚偽記載が存在すると判断する場合、企業の顧問弁護士等の適切な第三者と相談することを経営者に要請し、経営者が受けた助言について考慮しなければならない。		
16. If the auditor concludes that there is a material misstatement of fact in the other information which management refuses to correct, the auditor shall notify those charged with governance, unless all of those charged with governance are involved in managing the entity, of the auditor's concern regarding the other information and take any further appropriate action. (Ref: Para. A11)	A11. When the auditor concludes that there is a material misstatement of fact that management refuses to correct, appropriate further actions by the auditor may include obtaining advice from the auditor's legal counsel.	15. 監査人は、その他の記載内容に事実の重要な虚偽記載が存在すると判断したが経営者がそれを修正又は訂正することに同意しない場合、監査役等にその他の記載内容に関する監査人の懸念を知らせるとともに、適切な措置を講じなければならない。(A10 項参照)	A10. 監査人が事実の重要な虚偽記載が存在すると判断したが、経営者がそれを修正又は訂正することに同意しない場合の監査人の適切な措置には、監査人の顧問弁護士に助言を求めることが含まれる。	
<b>Effective Date</b>		<b>《IV 適用》</b>		
3. This ISA is effective for audits of financial statements for periods beginning on or after December 15, 2009.		<ul style="list-style-type: none"> <li>本報告書は、平成 23 年 7 月 1 日に発効し、平成 23 年 9 月 30 日以後終了する中間会計期間に係る中間監査及び平成 24 年 3 月 31 日以後終了する事業年度に係る監査から適用する。</li> <li>本報告書(改正平成 23 年 12 月 22 日)は、平成 24 年 4 月 1 日以後開始する事業年度に係る監査及び同日以後開始する中間会計期間に係る中間監査から適用する。</li> </ul>		

“Copyright © [December, 2011] by the International Federation of Accountants (IFAC). All rights reserved. Used with permission of IFAC. Contact [Permissions@ifac.org](mailto:Permissions@ifac.org) for permission to reproduce, store or transmit, or to make other similar uses of this document.”